

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：32661

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2014

課題番号：23660024

研究課題名(和文)参加型オープンソースを活用した国際看護学の教材開発手法の探索

研究課題名(英文) Exploring A Potential of Developing participatory "OPEN-SOURCE" Teaching Materials of the International Nursing

研究代表者

近藤 麻理 (KONDO, Mari)

東邦大学・看護学部・教授

研究者番号：70325413

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：ネット上で無償公開するOpen Course Ware (OCW)が発展し、教育現場の講義の公開だけでなく、専門的な内容で学習者にも効果的なe-Learningコンテンツが作成されるようになり無償で提供されている。本研究では、オープンソースを活用し質の高い教材開発を行い学習環境の革新に貢献することを目指した。教育者が授業の中で利用できる教材と、学生が自主学習として利用できる材料を作成し、ウェブサイト上で無償アクセスできるようにした。オープンソースの国際看護学の教材を、授業や学生の自主学習ツールとして利用可能にし実践と分析を行った。

研究成果の概要(英文)：In University, Open Course Ware has been promoted in which lectures are published on the Internet for free access. Advances in technology also allow us to create specialized e-Learning contents effective for self-learning by students for free Internet download. An objective of the study is to develop high-quality teaching-materials by the open source approach of ICT (Information and Communication Technology), thereby contributing to the creation of an innovative learning environment. For this purpose, a web site containing classroom teaching materials for teachers and self-learning materials for students is made open for public access. Then those materials, for example, in the field of international nursing, are actually used by the teachers and the students in the classroom and self-learning environment to analyze their usage, points of improvement.

研究分野：国際看護学

キーワード：国際看護学 オープンソース 教材開発 看護教育

1. 研究開始当初の背景

(1) 国際看護学は、その重要性が指摘されながらも、学問的にはまだ発展途上であり、教育方法や教材開発等は従来の看護の科目と比較し遅れている。近年、国際看護学という科目を新設した看護大学や看護専門学校が多くあり、研究者自身も多くの教員を対象に、国際看護学の講義方法や教材について教授している。しかし、教える意欲が高いにもかかわらず国際看護学教材と国際看護学の知識をもつ教員が圧倒的に不足しているのが現状である。国際看護学では、教科書や教材等を作成する専門家や経験者数が少ないため、早急に準備されるべき教科書も教材も整っていないのが現状である。

(2) 一般的には、大学規模で教育コンテンツを作成し、講義公開などを実施している大学コンソーシアムが存在している¹⁾。あるいは、オープンコンテンツについても、米国のMITを中心にプロジェクトが開始されている²⁾。しかし、このような大学規模のオープンサイトでは補えない、看護分野の国際看護学という新しい科目に限定した、看護学教育の発展に寄与する教材開発と研究が必要であることから本研究の着想を得た。

(3) 国際看護学の教材が早急に必要教育現場において、ウェブサイトを利用して必要な教材を提供することは、看護教員の負担増を軽減し多くの教員が国際看護学を教授することに貢献する。さらに、社会構造の変化による新規学問領域の構築において、オープンソースの発想を活用して教育現場の実践知を共有することにより、短時間で質の高い教育教材が開発できることが本研究において明らかになる。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、看護分野の新領域である国際看護学の構築のため、初期の教材作成とそれを公表するためのウェブサイトを作成することで実践知の集積を図り、国際看護学の発展に資する教材開発の手法を探索することである。

(2) 本研究の意義は、国際看護学だけに効果的なのではなく、新規学問分野の発展を支える教育教材開発の方法論として普遍性が認められれば、他分野への波及の可能性も考えられることである。

3. 研究の方法

(1) 本研究では、ウェブサイトを利用しながら国際看護学の初期教材を作成し、看護教育者の実践知をいつでも誰でもアクセス可能なサイトに集積する。

(2) 本研究に最適なウェブサイトの原案を作成し企業と共同作業で構築する。国際看護

学の資料を収集し、ウェブサイトに掲載するコンテンツについて専門家と検討する。その後、掲載可能な原稿を作成する。作成した初期教材について評価・改善した後に、ウェブサイトにアップロードする。会員登録とアンケート調査により内容の充実を図りながら、内容の評価を受け、改善を繰り返す仕組みを作る。

4. 研究成果

(1) ウェブサイトの構築については、本研究のプロトコルを説明し、実際にどのような内容の項目やシステムを立ち上げていくかについて検討した。その結果、原則はオープンソース方式とするが、国際看護学の視聴覚教材がアップロードされるページは、会員登録したメンバーのみにIDを渡し、そのうえで自由に利用できる形式とした(図1参照)。

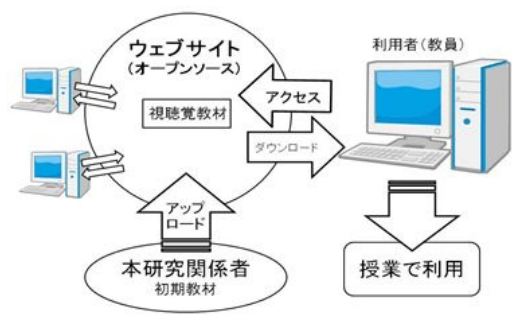


図1 ウェブサイトのシステム

(2) ウェブサイトの項目は、国際看護に関する受容の高い、1) 一般情報、2) 書籍、3) 映画、4) ホームワークの4カテゴリとした。各項目に小項目を付与し、国際的視野を広げる、海外の状況、国際協力の現状の3点とした。また、学生の活用を前提として国際的なボランティアやインターンの情報も項目に加えた。

4カテゴリから入ると情報リンクがあり、教員や学生が国際機関等のデータ等の検索に時間をかけず、すぐにアクセス可能なように並べている。また、そのホームページの表紙ではなく、頻繁に使用する情報を選別しており、その情報ページに直接アクセスできるようにした。

(3) 書籍・映画情報についてもカテゴリ別に、学生が書籍・映画を検索しやすいように並べており、これらを授業に活用してホームワークや事前学習に利用可能となっている。映画は、授業での利用を広げるために、わかりやすく内容を解説している。さらに、今まで国際看護学を学ぶ機会がなかった看護職者が、自主学習に役立てることも可能である。

(4) 現在、高等教育機関がオープンエデュケーションリソースを利用して知識を習得し、大学においては問題解決型や体験型の授業を受けるといったプログラムやカリキュ

ラム変革が推進されている³⁾。これらの理由からも、事前学習としての役割を本研究のウェブサイトが果たす役割は大きい可能性がある。しかし、授業を実践する教員にとっては、知識は学生の事前学習に任せて、大学では問題解決型や体験型などのグループワークを活用した授業を実践する方法には慣れていない。そのため、専ら授業の内容を補う方法としてのホームワークという視点から内容を検討した。

(5) 新規登録ページから入ると、管理者(研究者)に連絡され、ID番号が付与される。その後、教員向けの要ログインページへのアクセスが自由となる。教員向けページには、研究者が実際の授業で繰り返し実践したうえで、効果的であった国際看護学の基礎的授業教材を、自由にダウンロードし授業で利用できるようにしている。学生評価や国際看護学の専門家、大学院生等の意見を分析して適切な教材を掲載した。

(6) 実際に教材を利用した教員等からのフィードバックをもらうために、アンケートページを作成した。このアンケートの結果を基に再検討を繰り返すことで、より質の高い教材開発が進むことを期待している。(図2参照)

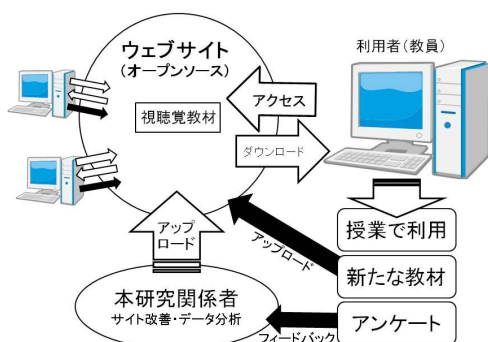


図2 要ログインの追加システム

(7) 初年度に、参加型講義について国際看護学を題材として2回の研修を実施した。開発した教材を、研修対象者100名に実施する中で、ウェブサイト上にアップして利用しやすい内容と、直接講義すべき内容に分別された。その中から、国際看護学の専門知識が豊富でなくても看護教員が利用し易いパワーポイント資料を選択した。この初期教材は、内容を再検討した上で教員向けページにアップされている。

(8) 企業が開発した電子黒板とPCを使用し、オンライン教育システムを連動させる機器を試作したシステムを教室に配置し、実際の研修の中で初期教材が使用可能であるかを試した。教員にとって使用方法が煩雑でないか、手軽に誰もが国際看護学の教材にアクセスできるかについて専門家と検討した。これらの

試行によりICTを利用した初期教材を提供できることが示唆された。

課題としては、ネット接続環境の整備が十分でない大学内で、グループに1つのPCを設置し、同時に20台近くのPCからの情報を得ることは、その時点の技術では困難であった。そのため、授業中のグループワークでのPC利用については、ネット環境の向上次第であるため、今後も試行の機会を待つこととした。開設したウェブサイトは図3を参照。



<http://kokusai.kangonomado.com/>

図3 ウェブサイトのサンプルページ

(9) 新規分野である国際看護学の教育内容と自主学習の質保証のためには、どこでも誰でもアクセス可能なICTを活用することの有効性は認められたといえる。広く看護教員と学生に周知し、教材の波及と工夫を継続することが重要となる。さらには、今回試作したオープンソース教材は、将来的に日本だけではなく多様な言語に変換して、世界に発信することが可能であり、看護教育のグローバルスタンダード確立にも役立つものだと考える。

<引用文献>

- 1) 山田 恒夫：大学における教育コンテンツ公開システムの将来，メディア教育研究，7(2)，S50-61，2011。
- 2) 飯吉 透：高等教育2.0 知識基盤社会とオープンエデュケーション，メディア教育研究，7(1)，S1-8，2010。
- 3) 古川 貴雄、白川 展之：ICT利用で世界的にオープン化が進む高等教育，科学技術動向，2，8-19，2011。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

近藤 麻理，佐藤 浩章：看護教員が教育力UPのためにできること，看護教育，56(1)，12-19，2015。査読なし

安永 悟，近藤 麻理：協同教育は、看護教育をいきいきさせる，看護教育，54(8)，

648 - 655 , 2013 . 査読なし

近藤 麻理 , 大学教育の質保証を考える , 看護教育 , 54 (3) , 200 - 206 , 2013 . 査読なし

〔学会発表〕(計2件)

Kondo, Mari et al. Effectiveness of the Career Development Program for the 1st year nurses , The 3rd International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Soul (Korea) 2013.10.8

Kondo, Mari Exploring A Potential of Developing "OPEN-SOURCE" Teaching Materials in The ICT Learning Environment, International Nursing Conference: Health, Healing, & Harmony, Phuket (Thailand) 2013.5.2

〔図書〕(計2件)

近藤 麻理 他 , 医学書院 , 公衆衛生看護学概論 , 2015 , 66 - 68

近藤 麻理 他 , 中山書店 , 国際看護学 - グローバル・ナーシングに向けての展開 , 2013 , 20 - 24

〔その他〕

ホームページ等

<http://kokusaikangonomado.com/>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

近藤 麻理 (KONDO, Mari)

東邦大学・看護学部・教授

研究者番号 : 7 0 3 2 5 4 1 3

(2)研究分担者

()

研究者番号 :

(3)連携研究者

()

研究者番号 :